

# 先進的な取組事例16 兵庫県神戸市

## ●取組みの背景と経緯（取組み経緯のパターン：事業者先導型）

ポイント：・以前から取り組んでいた生協（コープこうべ）からの働き掛けを契機に、二社協定を締結。

- ・神戸隣接市・町懇話会を通じ、業界団体・事業者に働き掛け、事業を拡大。
- ・レジ袋削減に取り組んできた市民団体も協定に加わり、三者協定となった。

- ・平成18年11月に生協（コープこうべ）から、マイバッグ持参率を90%に上げるために協定を締結し、連携して取り組んでいきたいとの要請を受けた。そこで、平成18年12月に「レジ袋の削減に向けた取組みに関する協定」を締結。
- ・隣接する市町と合同で神戸隣接市・町長懇話会（で業界団体・個別事業者\*に対し働きかけを行った結果、新たな事業者と協定を締結することができた。また、神戸市地球環境市民会議も市民代表として加わり、市民、事業者、行政の三者による協定締結になった。

## ●取組み内容

ポイント：・当初は二社協定、その後は三者協定にて取組みを拡大し、レジ袋の削減を実施。

- ・協定締結を契機に、生協（コープこうべ）と共同マイバッグキャンペーンを実施。
- ・事業者にて、当初は代金箱方式でスタートし、その後レジ精算方式を採用。

- ・平成19年2月には生協（コープこうべ）の市内4店舗でレジ袋代金のレジ精算方式が先行実施され、共同キャンペーンを実施した。
- ・生協（コープこうべ）では、1995年にレジ袋有料化に踏み切った。当初は代金箱方式であったが、企業の責務として確実にレジ袋を削減するため、レジ精算方式を採用した。
- ・神戸隣接市長懇話会より働きかけを行った結果、新たな事業者との協定締結を実現。

## ●成功要因

ポイント：・小規模な取組みから、段階的且つ着実に取組みの輪を広げていった。

- ・事業者における新たな挑戦の舞台裏には、各店舗が必死の努力を積み重ねた。

- ・当初は、生協と行政の二社協定による小規模な取組みであったが、取組みの成果と課題を見据えながら、段階的且つ着実に取組みの輪を広げ、事業者、市民団体等の参加者を増やしていくことができた。
- ・生協（コープこうべ）においては、客数減少のリスクを背負いつつ、レジ袋有料化、レジ精算方式の導入など、新たな取組みを進めた。その舞台裏では、組合員の理解を得るため、各店舗の必死の努力があり、独自の工夫を凝らし、相当な回数の研修を実施したようだ。

## ●問題点、課題と対策

ポイント：・商店街への広がり、市民運動との連携による、取組みの展開を考えている。

- ・今後は地産地消など、他の分野でも三者連携による取組みを推進したい。

- ・参加事業者を増やしていくことについては、商店街への広がりを進めていけたらと考えている。ただし、予算が不足している中で、どのように対応していくかという課題はある。当座は、「もったいないやん！ KOBE 運動」と連携し、拡大できないかと考えている。
- ・今後は、レジ袋のみならず、地産地消等、他の環境分野でも市民、事業者、行政の連携による取組みを推進したいと考えている。例えば、簡易包装を進めていくべきではないか。事業者、特にメーカーはもっと汗をかくべきとの市民の声もある。

●取り組みの様子（コープこうべと市の共同キャンペーンの様子）



●まとめ

- ・当初は二社協定、その後は三者協定にて取り組みの輪を広げ、レジ袋の削減を実施。
- ・小規模な取り組みからスタートし、段階的且つ着実に取り組みの輪を広げていった。
- ・有料化、レジ精算方式など、事業者の新たな挑戦の裏では、各店舗が組合員を初めとする市民に理解を得るため必死の努力を積み重ねた。

照会先 神戸市環境局減量リサイクル推進課  
〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1  
電話番号 075-213-4930 電子メール 3r@office.city.kobe.jp